

「自治会支援アドバイザー事業」モデル地区の活動状況について (R8. 2)

出雲市では、自治会への加入促進を図るため、情報や意見交換を行う町内会（自治会）加入促進検討委員会の設置、自治会加入推進員による自治協会と連携した加入促進活動などに取り組んできましたが、自治会加入率は年々低下しています。

この状況を改善していくため、令和3年度から、自治会のあり方を見直し、住民のニーズに応えられ、加入し続けることができる自治会づくりをめざし、自治会の体制や運営に関する課題を洗い出し、専門家の指導・助言を受けながら、解決方法を導き出す「自治会支援アドバイザー事業」を創設し取組を進めています。

1. 自治会支援アドバイザー事業について

① 事業の進め方

モデル地区において、オンラインでアドバイザーとの事前協議を経て、2か年で、地域で話し合いを重ね、3回のアドバイザーを交えた会議を開催し、課題解決に向けた活動をまとめる。

【1年目】**会議①**課題の洗い出し→地域内協議→**会議②**解決策の検討→地域内協議

【2年目】地域内協議→**会議③**事業改善と検証（まとめ）→実践+話し合いの継続

※ アドバイザーからは、会議以外でも、随時情報提供や助言を受けることができる。

② アドバイザーについて

合同会社フォーティR&C（東京都中央区日本橋3丁目2番14号）

代表社員 水津陽子（島根県浜田市出身）

※ 全国の自治体や自治会を対象に地域の活性化に係る講演を多数実施されており、令和3年度に総務省が立ち上げた「地域コミュニティに関する研究会」の構成員に選出され、その実績が認められている。

③ これまでの実施地区

令和3～4年度 3地区 高松地区、高浜地区、直江地区

令和4～5年度 1地区 鳶巣地区

令和5～6年度 1地区 川跡地区

④ 今後の取組

令和6年度は令和3～4年度に実施した3地区、令和7年度は令和4～5年度に実施した1地区の検証を行った。今後も、成果が市全体に広がるような取組を展開していく。

～次ページ以降に、これまでのモデル地区の実績をまとめています。～

(1) 高松地区 [令和3～4年度実施]

【課題】

- ここ数年、自治協会を脱会される小字自治会が多くなっている。また、連合町内から脱会し、自治協会に直接加入される小字自治会や世帯も増え、各団体の役員の選出や、災害時の連絡、被害状況の把握にも影響が出ている。



【活動】

① 組織の見直し（短期目標）

- アンケート調査を実施。会費や募金等の金銭的な面や、体育祭や消防団等の労働的な面での負担や不満が大きく、見直しが急務と考えた。
- 「①全体の予算減、②役や労務的負担、③高齢化による減免、④自治協会と各大字町内独自ルールとの区別、自治協会と大字町内会の一本化」の4つの課題に整理し、関係者が集まり協議を進めた。

② 新ルール「高松暮らし手帖（仮称）」の作成（長期目標）

- 自治協会の組織を見直したうえで、自治協会の会費や行事、組織などを明記した「高松暮らし手帖（仮称）」の発刊を目指す。

③ 情報発信

- 自治会代表者に、LINEの「高松防災さかいくん」に加入要請。併せてLINE講習会を実施した。

④ その他の取り組み

- 子育て世代を対象に、楽しみながら地域の防災に関心を寄せ、地域で支え合っていることを知ってもらうため、「防災フェア」を開催した。
- 地域の交流・ふれあいの場をつくるため、若手有志の会の企画で、地元に関わりのある農産物・加工品を販売する「イイね!!たかまつ市場」を開催した。

【成果】

- 統一ルールを決め、分かりやすい形にまとめていく検討を行うことになった。
- 消防団の待遇改善による欠員解消など、各団体で見直しの成果が出始めた。
- 若手リーダーが現れ、地域の活動に積極的に関わる雰囲気が出てきている。

【令和5～7年度の取組】

- 大字町内と、役員や会費負担の減、自治協会とのルール区別等について協議。
- 自治協会が助成している各団体と、特に役員負担軽減を目指して協議。
- 「高松七恵まつり」を、有志で企画運営する小規模の「シン・七恵フェス」にして開催。
- 避難訓練（おまもり手帳を活用）に合わせ、楽しみながら防災を学ぶ「避難訓練フェス」を開催。防災LINE登録者は471人となり、伝達訓練も実施。
- 体育祭を、大字地区対抗とフリー種目を織り交ぜ、気軽に参加できる形とした。
- 新しい地域参加の仕組みで地域課題を解決するため、30～40代を中心に「たかまつ笑顔プロジェクト」を結成し、講演会の開催等を実施。

(2) 高浜地区 [令和3～4年度実施]

【課題】

- 急速に宅地造成が進む中、説明しても自治会加入に理解が得られない。
- 災害時の状況把握、各種団体負担金の徴収、環境保全活動の参加呼びかけができないなど、取組に支障が出ている。
- 高齢化や独居化が進み、自治会脱退が増えている。また各種団体への役員選出数が多く、役員の負担が大きい。



【活動】

① 情報発信の取り組み

- 新たに加入促進用チラシを作成した。加入促進を前面に出さず、高浜地区の取組や、同じ地区に住む者同士のつながりを求める内容とした。
- 自治協会のホームページを新設するなど、新たな情報発信方法を検討した。

② 自治会の維持・発展を図る取り組み

- 各自治会に対し加入実態を把握するアンケート調査を行った。役の負担や、行事に参加できないのが、脱退や未加入の理由であることを把握した。
- 各団体代表者会を開催し、それぞれの組織のあり方を根本的に見直し、会則・活動・予算等の再検討を提案し、検討を進めることとした。
- 会費については、活動の見直しをしていく中で、予算額の削減が可能となるよう提案し、検討することとした。
- 1年間の検討期間を経て、令和6年度からのリセットを目指した。

③ 未加入地区の生活に関わる活動の取り組み

- ゴミ拾いの呼びかけを2回（10月、3月）行った。
 - ➔ 未加入地区で清掃活動を実施。溝掃除にも未加入の人達の参加があった。

④ 地域のつながりを図る取り組み

- 親子で取り組めることで、子育て世代との交流を図れるよう、「地元のツルでリースをつくろう」を開催した。
 - ➔ 未加入者4組が参加。活動を繰り返し、地区活動への参画推進を図りたい。

【成果】

- 関係団体と、役員や会費の負担軽減について前向きな議論・検討が進んでいる。
- 未加入者が活動に参加するなど、関心を持ってもらえるようになってきた。

【令和5～7年度の取組】

- 「もくりんプロジェクト」で、未加入世帯に地域活動への参加の呼びかけ。
- 各団体に対し、役員の出し方・会議の簡素化・経費縮小などの見直しを依頼し、令和6年度から一部変更（役員数の削減と会費1割の減）。
- 総合文化祭に合わせて「防災フェスタ」、「子どもランド」を開催。
- 子ども食堂開催時に、分からないことや困りごとなどの相談コーナーを開設。
- 「音楽のつどい」を、栗津稻生神社を舞台に移し、地元神楽の上演と併せた「コスモス祭り」に拡充。

(3) 直江地区 [令和3～4年度実施]

【課題】

- 住民の関心や参加意識を高め、住民の参加促進と既存組織の事業や運営を見直し、会費や役員負担の軽減はどうしたらいいか。
- 高齢者世帯が増加し、脱退を考えている世帯の脱退防止はどうしたらいいか。
- 分譲住宅地の戸建て住宅や外国人住民が増える中で、自治会加入の意義を理解してもらい、新しい自治会づくりや自治会加入をどのように進めたらよいか。



【活動】

① まちづくり懇談会の開催

- 現状と課題を共有し、今後のまちづくりについて意見交換する懇談会を開催した。関心を持ってもらう機会と同時に、自治会の新しい取組（準会員制／高齢者世帯への役割免除／休会制度／会費振込制）を紹介することができた。

② 自治会加入世帯の負担軽減化や役員の見直しの検討

- 住民に会費などの負担を依頼している地区団体と、会費負担及び役職などの見直しについて意見交換会を行った。

③ 地区住民の交流事業及び外国人住民との交流の検討

- 地区内企業の協力会社と外国人住民への対応や交流について意見交換した。
 - 会社の一斉送信システム利用や地域情報紙の配置で協力が得られた。
- 「とんどさん」に、未加入世帯や実施しない自治会に、参加呼びかけをした。
- 自治会未加入世帯に地域活動への協力をお願いするチラシを配布した。
- 「やさしい日本語」「地域の歴史」など、住民研修の場づくりを行った。

④ 情報発信

- 若い世代や外国人住民を対象に、新しい情報ツールとして、コミセンのフェイスブックの運用を開始した。
- 住民の地域理解を進めるために情報誌「Harmonia (アルモニア)」を、日本語とポルトガル語で作成した。

【成果】

- 住民同士の話し合いや各団体との意見交換会により、問題意識の共有や課題についての検討が進みつつある。
- 協力会社との協議により、外国人に対する情報提供の手法が確立された。
- フェイスブックなどの新たな情報発信に取り組むことができた。

【令和5～7年度の取組】

- 多文化共生で、ブラジルのお話とお菓子づくりや、そば打ち体験を開催。
- 各団体において、役員や会費のあり方等についての検討を継続。
- 地区内の団体の会費等について、各団体がこういう活動をしたいので会費が必要であると直接町内会代表者に説明して集めることに変更。
- 未加入者へ、夏祭りの参加呼びかけと、協力金のお願いをポスティング。
- 自治協会や各団体の自治会長への宛て職を大幅に削減。

(4) 鳶巣地区 [令和4～5年度実施]

【課題】

- 戸建て住宅やアパート等が建設され、世帯が増加している中で、加入率が年々減少している。新たに居住する住民にも一員に加わってほしい。
- 加入率の低下、自治会加入による負担増や負担金等に対する改善策や改善方法等の助言がほしい。
- 新出雲市体育館の令和6年春開館を契機に、鳶巣地区のまちづくりを、地区住民と共に取り組む「未来につなぐまちづくりプラン」を策定したい。



【活動】

① 「鳶巣の未来を語ろう」の開催

- 鳶巣地区の魅力と課題について、グループワークで話し合い、発表した。
- 参加者は自治協会役員だけでなく、中学生や高校生も参加し、若者からの貴重な意見も出された。

② 各種団体の組織体制等の見直し

- 地区内の各種団体に対して、新しい組織に作り替えていくような思い切った見直しができないか、検討を依頼した。

【成果】

- 「鳶巣まちづくりビジョン」バージョンⅠが完成し、住民が目標とするまちの姿ができた。
- 若い人を含めた住民や各種団体関係者に、まちづくりに対する関心をもってもらうきっかけになった。
- 各種団体のうちの一つが負担金を少し下げるなど、見直しの実績が出てきている。

【令和6～7年度の取組】

- ビジョンに掲げた各項目について、各団体で実施できるものから実現。
- 学校へ行きづらい中高生の集いの場として、「ひだまりルーム」を高校生が自主開催。
- 「未来を語ろう交流会」として、県立大学4年生との交流会を開催。
- 各団体や、中高生、県立大学生などの意見を取り入れ、「鳶巣まちづくりビジョン」をバージョンⅡに更新。
- 地区の各団体長と、まちづくりビジョンの実現に向けたヒアリングを実施。
- 鳶巣版の「自治会ハンドブック」を作成。それを資料にして、自治委員を対象に、自治会についての説明会と意見交換会を実施。
- まちづくり先進地への視察研修の実施や、リモート研修会の開催。
- 各団体の自治会からの役員選出について、見直しを実施。

(5) 川跡地区 [令和5～6年度]

【課題】

- 住民が増える一方で自治会加入が進まない。
- 町内会・自治協会加入促進委員会を設置し、未加入者世帯への働きかけや説明会を行っているが、結果が出ていない。
- 住民からは加入や結成のメリットが感じられない、負担が大きいなどの声が多く聞かれることから、加入促進活動の突破口となるヒント、助言がほしい。



【活動】

① 自治協会（自治会）について理解してもらうための工夫についての検討

- 自治協会の活動紹介のほか、自治会新規加入世帯へのインタビュー記事を毎月掲載する「自治協会だより」を発刊した。
- 地区内の散歩の〈おすすめポイント〉を紹介するリーフレット「おさんぽMap〈川跡エリア〉」を作成した。
- 加入促進の取組主体を「地域の輪を広げる会」とし、大字地区で取組を行った。地区全体では、楽しい交流会的なイベントの開催などについて検討した。

② 自治協会へのおためし加入についての検討

- 新しく地区に居住された方などを対象に、3年間の「準会員制度」を導入する準備を行った。

③ 自治会役員の負担軽減についての検討

- 自治協会、各団体の町内会選出委員の役割や設置の必要性を検討し、選出方法を見直す準備を行った。

【成果】

- 具体的に地域課題を絞り込み、それに対して有効と思われる意見や提案が多面的に出された。
- 従来の加入促進の取組についての課題も明らかになり、地区全体や大字地区ごとに、有効な手法を考える意識が高まった。
- 「自治協会だより」の発行や、準会員制度の導入、加入説明会に代わる交流イベントの開催の検討につながった。

【令和7年度の取組】

- 自治協会の準会員制度を導入。

【内容】・自治会の代表者は選任するが、各種団体の委員は当初は選出しない。
・自治協会費を加入年度は免除する（2年目から納付）。
・3年後に自治協会以外の各団体に加入するかを判断してもらう。

- かわとマルシェで困りごと相談のブースを設置。
- 未加入者を対象にしたイベント「welcome かわとガイダンス」を2回実施。相談・談話コーナーも開設。
- 「地域の輪を広げる会」の加入促進強化月間を6月、9月の年2回設定し、大字地区ごとに取組を実施。